

群馬大学教育学研究科長期研修院

平成 31 / 令和元年度 活動報告書

令和 2 年 6 月

## 目次

はじめに	1
群馬大学教育学研究科長期研修院（国語科教育）活動報告	2
群馬大学教育学研究科長期研修院（社会科教育）活動報告	4
群馬大学教育学研究科長期研修院（数学教育）活動報告	7
群馬大学教育学研究科長期研修院（理科教育）活動報告	9
群馬大学教育学研究科長期研修院（音楽教育）活動報告	10
群馬大学教育学研究科長期研修院（美術教育）活動報告	12
群馬大学教育学研究科長期研修院（家政教育）活動報告	14
群馬大学教育学研究科長期研修院（保健体育）活動報告	15
群馬大学教育学研究科長期研修院（障害児教育）活動報告	17
群馬大学教育学研究科長期研修院（臨床総合センター）活動報告	19

## はじめに

時代の移り変わりとともに、学校で扱う教科の内容や学校現場自体の課題は必然的に変化していくため、現職教員には「学び続ける」ことが求められます。現職教員の「学び」は県や市町村など行政組織による研修や、現場で蓄積されてきた知識・技能の継承などによって支えられてきました。しかし、組織的な研修では主要な教育課題以外の内容まで網羅することは本質的に困難である上、団塊世代の退職が進んで OJT も機能しにくくなってきています。しかも学校の役割に対する期待は肥大化しており、学校現場は多忙感に満ちています。このように、自由に学ぶ機会も時間も足りない状況の中で現職教員が「学び続ける」ためには、「学び」を支えるしくみの多様化が必要ではないでしょうか。

一方、時代の移り変わりは大学の存在意義にも影響を与えており、特に地方大学には教育・研究だけでなく、地域への具体的な貢献が求められています。群馬大学教育学部および教育学研究科は本務として地域の教員を養成することで地域に貢献してきましたが、さらに地域の“現職”教員に対する積極的なサポートを行うことにより、教育および教科の専門家集団を擁する組織の本質に合った形で地域貢献機能を強化することができると考えられます。また、現職教員との協同の機会が増えることで、現場の課題にこれまで以上に深く寄り添った、教育・研究の新たな展開も期待できます。

そこで群馬大学教育学研究科では、平成 24 年度からオーダーメイド型の個別研修を行う『群馬大学理科教育長期研修院』を理科教育講座に開設しました。そこから徐々に発展し、令和元年度には全 11 分野で研修を受け入れる『群馬大学教育学研究科長期研修院』が、個別研修や勉強会など、分野の特性に応じた多様な形の研修を提供し、さまざまな分野の「学び」をサポートしています（報告書には 10 分野分を掲載）。

学校現場、大学、お互いの多忙さの中で継続して研修を行うことは決して容易ではない中、大学を充実した「学び」の場にできるように試行錯誤している様子を、たくさんの方に読み取っていただければ幸いです。次年度以降も多様な研修を行い、「学び続ける」現職教員を「サポートし続ける」研修組織を目指したいと考えています。

群馬大学教育学研究科長期研修院運営委員長 佐野 史

### 平成 31/令和元年度群馬大学教育学研究科長期研修院 分野（担当）一覧

国語科教育（国語教育講座 濱田 秀行准教授）	美術教育（美術教育講座 茂木 一司教授）
社会科教育（社会科教育講座 今井 就稔准教授）	家政教育（家政教育講座 小林 陽子准教授）
数学教育（数学教育講座 石井 基裕准教授）	保健体育（保健体育講座 鬼澤 陽子准教授）
理科教育（理科教育講座 佐野 史教授）	障害児教育（障害児教育講座 霜田 浩信教授）
音楽教育（音楽教育講座 西田 直嗣教授）	教育臨床（臨床総合センター 久保 信行教授）

## 群馬大学教育学研究科長期研修院（国語科教育）活動報告

### 1：長期研修院（国語科教育）の概要

国語科の授業づくりに取り組む現職教員が研究者と共に子どもの学びについて理解を深める協働の場である。活動のひとつの柱は、授業事例検討会である。小中高等学校で国語を担当する教員と国語教育講座教員とで国語科の授業実践事例に基づいて議論を行うことを通して、参加者が「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について理解を深め、それぞれの実践の質的な向上を図ることである。もう一つの柱は、教員個人の授業実践の支援である。国語の授業づくりのための教材研究についての個別研修を提供する。

### 2：活動実績

本年度も、群馬県内の小中学校の先生方を中心とする「授業に学ぶ会」と連携を図りながら活動を行った。研修会を実施した日時とそのプログラムは次のとおりである。

	開催日	プログラム	参加者（現職）
第1回	6月30日	【授業事例に基づく学び合い】 「もうすぐ雨に」（小3）附属小学校桐生直也先生	14人（14人）
第2回	7月20日	【授業事例に基づく学び合い】 「足し算と引き算の筆算」（小3）木島平村立木島平小学校原美幸先生	4人（4人）
第3回	8月11日	【授業事例に基づく学び合い】 「想像力のスイッチを入れよう」（小5）前橋市立永明小学校林千枝先生	16人（12人）
第4回	10月20日	【授業事例に基づく学び合い】 「河童と蛙」（中1）高崎市高南中学校臼井ひとみ先生	9人（7人）
第5回	2月29日	【授業事例に基づく学び合い】 ①「少年の日の思い出」（中1）高崎市立高南中学校臼井ひとみ先生 ②「たぬきの糸車」（小1）藤岡市立小野小学校田中優花先生 【講演】 新潟大学大学院 一柳智紀 先生「一人一人の学びを保障するために」	16人（9人）

研修会は、参加者の利便を考え、土曜、または日曜にC棟1階の教室で実施した。第5回は特別に新潟大学より教室談話分析の専門家である一柳智紀先生をお招きしてご講演をいただいた。この日だけ、午前・午後にまたがるプログラムの設定を行った。5回の研修会の述べ参加者数は59人である。

## 第1回の様子



## 第5回の様子



なお、この研修会とは別に、実践者の授業実践開発に対する支援として中学校国語科の教材研究に関する個別研修を2件実施した（7/31，12/26）。

### 3：今後に向けて

本年度も、実際の教室における子どもの学びの実態から国語科の学習指導のあり方について現職の先生方とともに議論を重ねてきた。地域の先生方の授業実践の改善について貢献ができたと考える。会では、本学を卒業した若手教員の事例に基づいてベテラン教諭と学部学生が学び合っている。地域で行われる挑戦的な教育実践と学生の学びとがつながる貴重な場となっている。なお、毎回の授業検討会に際し濱田研究室の所属学生が授業映像から談話記録を作成し提供してくれている。この資料により、毎回の議論が子どもの学びの姿に即したものとなっている。今後も、このような互恵的な関係を継続していきたい。

## 群馬大学教育学研究科長期研修院（社会科教育）活動報告

### 1：長期研修院（社会科教育）の概要

社会科教育の長期研修院では、歴史、地理、公民、社会科教育の4分野について、それぞれ現職教員や本学の教員などによる講演会を実施している。社会科教育の実践例やそれに関連する話題・テーマを扱うことはもちろんであるが、講演者の専門分野における研究の紹介、国内外におけるニュースの学術的考察、さらには参加者同士の情報交換など、狭義の社会科教育にとどまらない研修院を目指している。

### 2：活動実績

令和元年度の活動は以下のとおりである。

#### ○歴史

日時：2020年2月9日（日）13時00分～

会場：群馬大学教育学部A棟3階311教室

内容：新学習指導要領と構成主義に基づく歴史教育

講師：本木洋帆（群馬県立吉井高等学校教諭）

概要：平成29・30年改訂の学習指導要領に記される「課題を追究したり解決したりする活動」として、構成主義的なアプローチとりわけ「歴史家体験学習」が有効ではないかとの見通しが語られ、その具体的実践として、鎌倉幕府成立年代を題材としたジグソー学習が提示された。資料読解をもとに歴史像を構築させる授業に対して、楽しいと感じた生徒をもちいた一方で、困惑する者もいたという。多角的に歴史的事象を捉えさせたいというねらいをより効果的に実現する方途や「公民」形成へ繋がるような問の設定などを、今後も追求していきたいと結ばれた。その他、特に現職教員から、経験に基づいた多様な意見が数多く出され、活発な議論となった。特に「公民的（市民的）資質」とは何を指しているのかとの質問については、報告者自身も消化しきれていないとの回答で、今後の大きな課題として問題意識を共有した。

参加18名（大学教員1名、高校教員3名、大学院生（他大学・現職教員（高等学校）含む）2名、学部生12名）

#### ○地理

日時：2020年2月8日（土）13時30分～

会場・集合場所：群馬大学教育学部C棟1階C103教室

内容：災害碑から過去の自然災害の教訓や災害リスクを学ぶ赤城山南麓の1947年カスリーン台風災害碑を事例として

講師：青山雅史（群馬大学教育学部准教授）

概要：近年発生した自然災害では、過去の被災教訓がさまざまなかたちで地域に残されていたにもかかわらず、それらが適切に認知されておらず、甚大な被害が発生した事例が多くみられた。このような状況を受け、国土地理院が新しい地図記号「自然災害伝承碑」を制定し、各地域に残る災害教訓（過去の自然災害に関する石碑など）の周知・普及を図り、地理教育

や防災教育などへの活用も意図した新たな動きがある。そこで、本研修では、赤城山南麓に分布する1947年カスリーン台風災害碑を車で巡り、それらからカスリーン台風による被害状況や被災教訓についてどのようなことが読み取れるか、参加者と討論を行った。参加（15名うち現職教員7名）

#### ○公民

日時：2020年2月8日（土）16時30分～

会場：群馬大学教育学部N棟3階東端 大会議室

内容：有効な主権者教育のあり方と政治的中立性～高校における授業実践を通して～

講師：峯川浩一（沼田高校教諭・群馬大学大学院教育学研究科修士2年）

概要：報告者がこれまで勤務校において実践した主権者教育の取り組みに基づいて、有効な主権者教育のあり方について報告し、議論した。報告者は、各種の主権者教育の実践を積み重ね、国政(選挙)と地方政治のそれぞれについて相応しい主権者教育のあり方を追求してきた。また、主権者教育に取り組む上での重要な課題である「政治的中立性」について、教員の意識の調査や理論的検討を進めてきた。こういった研究と授業実践の成果について今後の課題について報告し、参加者と議論を行った。参加（15名うち現職教員5名）

#### ○社会科教育

日時：2020（令和2）年2月1日（土） 16:00～17:00

会場：群馬大学教育学部 A棟311教室

内容：社会科教育におけるシステムアプローチの考え方と実践ー持続可能な社会のための教育に向けて

講師：宮崎沙織（群馬大学教育学部准教授）

概要：持続可能な社会づくりのために、全ての教育活動で取り入れることが可能とされる「相互につながった要素や問題を全体的にとらえ、解決策を見出そうとする能力を育てる教育方法」（システムアプローチ）に関する報告とワークショップを行った。

日本では、ESD及びSDGsのための教育の普及によって、システムアプローチ（システム思考）が紹介されつつあり、教科学習でも導入されつつある。本研修では、環境問題等に取り組んできた米国のメドウズらの考えを基盤とするシステムアプローチの基本や地理教育を中心とした思考ツールを利用した実践例の紹介、思考ツールの一つであるミステリー教材を使用したワークショップを行った。特に、ワークショップでは、システムアプローチが、システム論や構造主義を背景とすることや要素間のつながりや全体をとらえることを重視することを参加者で共有しながら体験活動を行った。今後の社会科教育では、持続可能性や地球的課題等を扱うにあたり、授業者や学習者の学習観の転換、評価方法の確立等が課題であることが全体で確認された。計13名（本学教員2名、学部生5名、大学院生2名、県内小中学校教員4名）

### 3 今後に向けて

社会科は現実の社会のさまざまな動きと情勢の変化を受けて、絶えず学び続け、学び直さ

なければならない教科である。教員、役所、一般企業に勤め日々の仕事に忙殺されている方々にとっては、まとまった時間をとって学びを实践することはなかなか難しいかもしれないが、ちょっと立ち止まって考えるためのきっかけや視点を社会科の長期研修院では今後も提供していくつもりである。が、現在この報告書をまとめている段階ではコロナウイルスが猛威をふるっており、今後の開催がどうなるのか、見通しが見つからない。コロナとそれに付随するさまざまな社会現象はそれ自体社会科の重要な考察対象ではあるのだが。



## 群馬大学教育学研究科長期研修院（数学教育）活動報告

### 1：長期研修院（数学教育）の概要

長期研修院の母体となった研究会として、数学教育講座は、20年程前から月に1度、現職教員、修士課程学生、大学教員が、算数・数学教育の学びの場として群馬大学に集い、研鑽を続けてきた。当時、小関熙純教授が発起人となり、長く継続した研究会である。様々な都合で数年前に休止したが、この長期研修院の形で復活した。以下その目的を数学科ホームページより引用する。

— 数学に携わる教員を支援し、現職教員が自らの造詣を深めたい数学の内容について大学の設備を利用して大学教員と協同して学ぶ研修の場として数学科研修院を置く。現職教員および数学教育講座教員が定期的に集まり、算数教育、数学教育に関する実践の報告や課題を発表し、数学教育の現場での授業改善や継続する研究を目指す。そしてそのバックボーンとなる現職教員の数学能力の開発を目的とする。—

### 2：活動実績

数学科研修院：全5回

開催場所：群馬大学教育学部 N 棟 109 教室

今年度も、各月末の金曜日、19時から21時の2時間、長期研修院の具体的な活動として、研究会を実施した。現職教員のもつ算数・数学教育における課題や問題点に、引き続きオーダーメイドで応えるべく活動を継続した。現職からの問題提示や疑問点のみならず、大学教員からの話題提供も継続している。

以下は、各回における話題提供者(発表者)とその課題のタイトルである。

- 第1回（2019年5月31日、担当者：澤田麻衣子、参加人数：15名（現職教員3名））
  1. 新原将義（帝京大学高等教育開発センター・助教）  
「ジグソー法入門」
  2. 篠塚拓也（群馬大学大学院教育学研究科・院生）  
「理数探求の問題解決過程」
  
- 第2回（2019年6月28日、担当者：小泉健輔、参加人数：14名（現職教員2名））
  1. 小久保練（群馬大学大学院教育学研究科・院生）  
「高等学校におけるジグソー法を取り入れた数学の授業の一考察」
  2. 小泉健輔（群馬大学教育学部数学教育講座・講師）  
「図形の定義に焦点を当てた学習活動について ~図形の包摂関係に関わる議論を中心に~」

- 第3回（2019年10月25日、担当者：石井基裕、参加人数：17名（現職教員4名））
  1. 新井乾山（群馬大学大学院教育学研究科・院生）
 

「大学数学から見た高校数学の教育的意義  $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin x}{x} = 1$  の証明を通して～」
  2. 横山重俊（群馬大学総合情報メディアセンター・教授）
 

「実験数学を Jupyter Notebook でやってみる」
  
- 第4回（2019年11月29日、担当者：山本亮介、参加人数17名（現職教員6名））
  1. 澤崎雄一郎（群馬大学大学院教育学研究科・院生）
 

「合同条件・相似条件による三角形の分類」
  2. 石井基裕（群馬大学教育学部数学教育講座・准教授）
 

「指数・対数に潜む組合せ論」
  
- 第5回（2020年1月31日、担当者：照屋保、参加人数12名（現職教員1名））
  1. 照屋保（群馬大学教育学部数学教育講座・教授）
 

「ユークリッド互除法と単位分数」
  2. 小久保練（群馬大学大学院教育学研究科・院生）
 

「ジグソー法を用いた数学の授業実践の考察」

3：今後に向けて

2020年2月28日に第6回数学科研修院（発表予定者：伊藤隆（群馬大学教育学部数学教育講座・教授）「再現？できる2次方程式、3次方程式、4次方程式の解法」）の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を考慮して中止とした。未発表の内容については、次年度以降の数学科研修院で発表される予定である。今後の活動については、下記URLでアナウンスする予定である。

<http://math.edu.gunma-u.ac.jp/math-kensyuin.html>

## 群馬大学教育学研究科長期研修院（理科教育）活動報告

### 1：群馬大学教育学研究科長期研修院（理科教育）の概要

「理科」という教科は、その基盤となる科学や科学技術が日々変革を伴うものであるとともに、授業の中で行う観察・観測・実験の技能の維持や更新が日々必要となるため、「学び続ける」必然性が高い教科である。群馬大学教育学部理科教育講座では「群馬大学教育学研究科長期研修院（理科教育）（旧名称：群馬大学理科教育長期研修院）」を平成24年度から開設し、理科に携わる現職教員が理科の授業に還元できる発展的な内容を研究できるように、講座教員と協同して行うオーダーメイド型の個別研修を主軸として活動を行っている。研修内容は授業用の教材開発がメインとなっている。

### 2：活動実績

令和元年度は15件の個別研修を行った。残念ながら新規受け入れはなかった。また、恒例となった群馬県高等学校地学部会との合同セミナーを行った。

#### <イベント>

##### 第七回合同地学セミナー

日時：平成30年8月17日（金） 13:00～15:30 於群馬大学教育学部地学実験室

参加者：13名（高等学校教員8名（うち研修院の個別研修参加者3名）、群馬大学学部生2名、高校生2名、群馬大学教育学部教員1名）

群馬県高等学校地学部会と研修院（理科）が合同で行う第七回地学分野のセミナーを開催した。今回は、氷の物性をテーマに、研修院メンバーが単結晶氷の内部融解に伴う「チンダル像」の観察方法を、群馬大学教員が「氷の復氷現象」の実験方法の紹介を行った。単結晶氷に光を当てただけで現れる樹枝状結晶のようなチンダル像を参加者は興味深く観察し（写真）、更に、その内部に作られた水の3重点を確認した。また、復氷現象を氷とドライアイスで比較することで、状態図における固液平衡曲線の傾きの意味を目で見て確認した。2名の高校生1年生が参加していたが、2つの復氷現象を比較することで、固液平衡曲線の傾きの意味を理解できたことは印象的であった。



### 3：今後に向けて

学部・大学院修了生の参加者が多くなっており、教員養成を担う研究科の研修組織として養成段階から研修までを請け負う流れができつつある。また、実際の授業や理科部の活動などに活用できる教材も生まれてきたが、研修院の参加者や関係者内に情報が留まりがちであるため、情報を研修院関係者以外に広めていく方策を検討する。

## 群馬大学教育学研究科長期研修院（音楽教育）活動報告

### 1：長期研修院（音楽教育）の概要

音楽教員は教育現場において様々な実技能力、音楽文化についての見識が求められる。そして、勤務する学校において音楽教員は少数であるためその学校の音楽文化を担っていると云っても過言ではないだろう。教育現場においては授業、行事、部活動において音楽教師としての役割を果たすことになるが、かつて専攻した音楽分野について芸術性を追求し、スキルを磨いてきたことがそこで十分に生かされることは難しく、一度体で覚えたものであっても時間とともにその多くは失われ、音楽芸術に対する情熱や関心も薄れていってしまうのも無理はない。また、音楽教育では特に部活動の分野において、勤務先によっては全国大会を目指さなくてはならない重責を担うことも少なくなく、学部、大学院で学んだことをさらに飛躍的に学習を推し進めなければ役割を果たすことが困難になることも見受けられる。そこで群馬大学長期研修院（音楽教育）では音楽に関わる現職教員を対象に、個人的な音楽的能力の維持・向上と、教育現場の様々な場面における音楽指導・演奏への還元を念頭に、オーダーメイド型の個別研修を行っている。

具体的には、音楽理論、演奏実技などのレッスンや、音楽イベントの企画等を通して音楽文化を創造する力を養う。

### 2：活動実績

#### 1) 個人レッスン 1名（小学校）

7/13	7/27	8/24	9/21	10/26	11/30	12/21	2/15
【個人レッスン】 ・ピアノ ・音楽理論	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左

#### 2) 創作・演奏・イベント企画 3名（中学校・高等学校）\*添付案内参照

4/28	7/15	8/11	9/1	10月1日～	12月1日	12/7
会議	会議・レッスン（創作）	同左	同左	コンサートイベント・リハール ・レッスン（創作・演奏）		コンサート開催 （高崎シティギャラリー コアホール）

### 3：今後に向けて

今年度は、音楽理論に関してはメール等での指導、及びZoomによる個人レッスンを予定している。

受講人数については、講座の性格から各個人に長時間当てることになるので、これまで通り申し込みのあった人に対応してゆく形をとる予定である。

歌曲の風〈ゼフィロス〉第1回新作発表会

# 夢うつつ恋物語

## ～今も昔も変わらぬロマンス～

2019 群馬大学教育学研究科長期研修院プロジェクト

新鋭作曲家と  
オペラ研究団体・ALEX音楽企画による  
今も昔にも通づる恋の物語。

### 第1部

・『竹取物語』より

かぐや姫と帝(音楽と朗読) 作曲 飯田麻友

・『伊勢物語』より

懐旧の香(ヴァイオリン独奏) 作曲 外所聖貴

・『源氏物語』より

源氏五十一帖「浮舟」(ソプラノ独唱) 作曲 西田直嗣

### 第2部

共同創作オペラ《小倉百人一首物語》

作曲 飯田麻友、外所聖貴、清水真美子、前田知樹、西田直嗣

演奏 ALEX音楽企画

後援:高崎市 高崎市教育委員会  
群馬テレビ ラジオ高崎



作曲/指揮  
外所聖貴



作曲/ピアノ  
飯田麻友



作曲  
前田知樹



作曲  
清水真美子



作曲/指揮  
西田直嗣



ソプラノ  
渡辺望未



メゾ・ソプラノ  
兒玉理紗



テノール  
田沼昌紀



ヴァイオリン  
松橋瑞穂



フルート  
大島小夜



ピアノ  
加藤達也



ピアノ  
安中美緒

2019年12月7日(土)13:30 開場 14:00 開演  
高崎シティギャラリー コアホール

〒370-0829 群馬県高崎市高松町 35-1 ☎ 027-328-5050

全席自由 1500 円

## 群馬大学教育学研究科長期研修院（美術教育）活動報告

### 1：長期研修院（美術教育）の概要

群馬大学教育学研究科長期研修院（美術教育、以下美術教育研修院と略）は、いわゆる教員養成教育の in-service 教育に対応した実践的な課題解決型研修を目指すものである。知識が急速に陳腐化する「知識基盤社会」において、アート活動も例外ではない。アートは作品（モノ）からアイデアや制作プロセスを含む出来事（コト）に変容し、参加体験型のワークショップアートや長期に渡って展開されるプロジェクト型アートも盛んになっている。同様に、デザインも WEB をはじめとして、情報そのものを対象に活動が展開されるなど、既存の（広義の）アート領域は拡張を続けている。現職美術教師に必要なイノベーティブな知識・技能は常に補強され続ける必要があり、特に ICT をはじめとする新しいデバイスやさまざまなメディア（材料／素材）の進化には緊要に対応の必要がある。

美術教育研修院の最大のメリットは、図工・美術教師等が現場で「困っていること」「伸ばしたいこと」を抽出し、自分の興味関心に基づいて、研修の場で解決やスキルアップを図っていく能動的な研修制度だということである。長期研修院参加者は自己の課題をみつけ、専門領域（アート）と教育を有機的に結び付け、より具体的に学校カリキュラムや題材開発に結びつけることのできる能力を研鑽する。また、このプログラムでは美術教育講座の教員は支援者と同時に研修参加者と協同的な学習者になる。ともすると大学教員（教育）は学校教育現場とかけ離れた教育に陥りがちであるが、研修院参加教員などとのコラボレーションは教員養成にリアリティを取り戻し、現行美術教師教育カリキュラム＝在学生たちに還元できるというよい循環を生み出すことである。

学校や社会は今たいへん厳しく、場合によっては（広義の）教師を押しつぶしてしまいかねない状況をつくりだしてしている。そういう多忙な現場であっても、いつか真剣に学問・芸術に向き合い、本音で教育について議論し、考えられる場を持つことは現代の教師には不可欠である。未来をつくる教育を担う創造的で想像的な教師教育にはすべての叡智の結集が必要であらう。

また、本長期研修院（美術教育）では、教員だけでなく、アーティストや保健師などの職種の人材も受け入れており、フォーマル教育とインフォーマル教育を架橋／越境する活動にも力を入れている。

### 2：活動実績

現在の会員は、10名（現職教員8名、保健師1名、アーティスト1名）である。

活動としては、個別の指導の他、2020年3月1日（日）群馬大学教育学研究科長期研修院（美術教育）成果発表会（於教育学部C204教室）を予定したが、感染症防止のために中止した。発表予定内容は別紙（「令和元年度 群馬大学長期研修院美術教育研修報告書」参照のこと）。

### 3：総括と今後の課題

研修院も7年目になり、研修院生も増え、活動の充実が見られる。

しかしながら卒後の美術教師教育（in-service 美術教育）には以下のような問題点が挙げられる。

①教職大学院の一本化による修士課程の廃止は、美術／教育の専門性の育成や確立に寄与しない。研修院は教育学部教員のいわばボランティアで成り立っている仕組みなので、研修院が卒後の美術教師教育を十分に担うことは難しい。一方で社会におけるアート／教育の必要性は高まっており、表現の自由の問題を含めて(広義の)創造性教育は今後ますます強調され、図工美術教育の役割も増していると考えている。

②この2年間修士課程の院生は教員以外のいわゆるアダルトスチューデントが入学し、学部生を含めて美術教育講座にはとてもよい刺激となった。教育という仕事は多くの経験値の必要な仕事でもあり、多様な人々が継続的に学ぶ場が必要であり、研修院も含めて、教育学部にこのような学習環境をデザインする必要があるだろう。

③また、本研修院が美術科教育教員の専門性、特に自由な思考や表現の場の確保によって、美術教師の多忙さや孤立感に対する的ケアの場、つまりストレスマネジメントになっていることは重要である。

④子どもたちへのアクティブラーニングが求められるが、むしろ教師が社会との関わりの中で主体的な学びを続けることこそ大事である。それによって、美術教師の孤立・孤独は回避されるはず。

本研修院から独自派生した、美術科教育研究集団（ビジュツノセンセイ）の「美術教育の展覧会」という仕掛けづくりは群馬県的美術科教育の活性化に強く貢献している。展覧会という手法で成果を開示することは美術／教育、つまりABR(Art based Research)の理論が示すように、アートの独自性を論文だけでなく、身体や多様なメディアで示す実験として期待できる。

## 群馬大学教育学研究科長期研修院（家政教育）活動報告

### 1：群馬大学長期研修院（家政教育専攻）の概要

家政教育専攻の長期研修院は、学び続ける資質・能力を有する教員の養成および支援の場を家庭科教員に提供することを目的としている。平成 25（2013）年度から、高等学校家庭科教員を対象に年 1 回の勉強会を開催してきた。平成 29（2017）年度より、対象を広げ中学校および特別支援学校教員にも参加を呼びかけて実施している。

### 2：活動実績

以下のように「学び続ける家庭科教員のための勉強会 2019」をおこなった。

日時：2020年2月29日（土）13:00～16:00 会場：群馬大学教育学部 C棟 206 教室

内容：13:00～14:20 講演：「家族の多様化—最近の動向—」

長津 美代子先生（群馬大学名誉教授）

14:20～14:30 休憩

14:30～15:15 講演とワークショップ：「高等学校家庭科（家族・高齢者領域）の工夫」

小林 由佳先生（群馬県立藤岡中央高等学校）

15:15～16:00 講演とワークショップ：「中学校家庭科実践の工夫 ワークショップ

(3)」

高橋 一美先生（吉岡町立吉岡中学校）

長津美代子先生からは、家族のかたちの変化、セクシャル・マイノリティの動向、子育て・介護・孫育てに関わる男性たちに焦点を当てた講演をいただいた。家族のかたちは変化し、見えなかったことが見えるようになり、生きづらさも少しずつ緩和されてきている。家族に関わる男性も徐々に増えている。国・地方自治体・企業・NPO 等の積極的な取り組みも功を奏している。一方、強固に変化しないものがある。結婚と性別役割に対する規範の強さである。長津先生は、この規範に対し、家庭科教育が重要な役割を担っているのではないだろうか、と述べられた。

小林由佳先生からは、日頃おこなっている家族・高齢者領域の授業実践についてご紹介いただいた。ディベートをとおして夫婦別姓について考える実践や、知識構成型ジグソー法を取り入れた実践について教えていただいた。また、高橋一美先生は、実際の指導案やワークシート、掲示物などを準備くださり、具体的にどのような授業を展開しているのか、ご紹介頂いた。

コロナウィルス感染予防のためグループでの討論や懇談会等ができなかったが、3人の講師から非常に熱のこもった話を聞くことができた。当日は、中学校および高等学校から 15名の教員、群大家政の2～4年生 14名の参加があった。講師、運営を合わせ 33名が参加した。

### 3：今後に向けて

年に1回の勉強会ではあるが、開催を期待する声が多く寄せられる。今年は「会はいつあるか？」という問い合わせもあった。「継続は力なり」を強く感じる。今後も学びの場を提供していきたい。

### 学び続ける家庭科教員 のための勉強会2019



**2020年2月29日（土） 13:00～16:00**

**13:00～14:20** 長津美代子先生（群馬大学名誉教授）  
「家族の多様化—最近の動向—」

**14:30～15:15** 小林由佳先生（群馬県立藤岡中央高校）  
「高等学校家庭科（家族・高齢者領域）の工夫」

**15:15～16:00** 高橋一美先生（吉岡町立吉岡中学校）  
「中学校家庭科実践の工夫 ワークショップ（3）」

場 所：群馬大学教育学部C棟203教室（群馬県前橋市荒牧町4-2）  
参加費：無料

問い合わせ&申し込み先 群馬大学教育学部家政教育講座  
准教授 小林陽子  
電話：027-220-7346  
kobayo@gunma-u.ac.jp



## 群馬大学教育学研究科長期研修院（保健体育）活動報告

### 1：長期研修院（保健体育科教育）の概要

長期研修院（保健体育科教育）は、現職教員と大学教員が一緒になってよりよい体育の実践に向けて学びを深める場である。主に、国の教育政策や世界の教育の動向を踏まえながら、公開授業や研修会で得たことなどの情報交換・情報共有によって日々の教育活動の参考にすること、②よりよい体育授業を目指して、各研究テーマをもとに授業実践に取り組み、それらをまとめた実践報告を通して授業力向上をはかること、をねらいとしている。

### 2：活動実績

前橋市・高崎市・藤岡市・沼田市の小学校・中学校・特別支援学校の先生方を中心に【体育授業を通して、子どもの成長する姿・笑顔をたくさん見る！】ために、保健体育科に関する最新の情報を共有し、授業力向上に向けた定期的な研修を行った(年 12 回/月に 1 度程度)。実施した日時と主な内容は次のとおりである。

回	開催日	参加人数		主な内容
			現職教員	
1	4月17日	12	11	授業実践/報告へ向けてのグループ分け、テーマの決定
2	5月15日	9	8	1学期実践者の授業づくり ・ 単元計画 実践論文発表（運動の楽しさを味わいながら体力の向上を図る取組 ー 体育授業の充実に向けた取組と教科外での工夫 ー）
3	6月19日	8	7	・ 授業の流れ ・ 教材教具 公開研究会についての報告 （4年：セストボール、5年：投の運動、6年跳び箱運動）
4	7月23日	6	5	・ 学習カード ・ 指導のポイント など 実践論文発表 （運動有能感を高める手立てを取り入れたソフトバレーボール・マット運動・バスケットボール単元）
5	8月6日	12	11	1学期の授業実践報告会 ・ A班：スモールステップを活用した逆上がりと前方かかえこみ回りの習得（4年生） ・ B班：タスクゲームに焦点を当てたバスゲームの実践（3年生） ・ C班：運動有能感を高めるためのバスゲーム（3年生）
6	8月20日	8	7	・ 中学校班：公開授業に向けて指導案検討（柔道） 2学期の授業実践へ向けての授業検討会
7	10月23日	9	8	各グループ2学期実践者の授業検討
8	11月20日	8	7	授業実践報告 ・ 小学校の地区別公開研究会 ・ 中学校の公開研究会 実践報告へ向けての授業検討会
10	1月15日	9	8	2学期の授業実践報告会 A班：自己課題を持って意欲的に活動できるマット遊びの工夫（2年生） B班：運動有能感を高めるためのベースボール型授業の工夫（4年生）
11	2月19日	8	7	各グループ 3 学期実践者の授業検討、実践の途中経過報告
12	3月26日			3 学期の授業実践報告会（コロナウイルス感染症予防のため、中止）

3：今後に向けて

**【今年度の課題など】**

・平日開催だったため、特に勤務地が遠い先生は参加が難しく、参加者がなかなか集まらなかった。

・参加者の輪を広げながら、授業実践はレベルを高めていきたい。

**【2020年度の方向性】**

・活動日：年12回(月に1度程度)、土曜日に開催(Zoomにて開催することも検討中)

・活動内容：3部構成

第1部：実技・情報提供…授業ですぐに活用したり、参考になる指導方法などを学べたりする

第2部：個別テーマについて話し合い…日ごろの悩みや課題の解決に直接つながる

第3部：授業実践についての検討・報告…授業実践の質の向上を目指す

## 群馬大学教育学研究科長期研修院（障害児教育）活動報告

### 1：長期研修院（障害児教育）の概要

共生社会の形成をめざし、インクルーシブ教育システムの構築が展開されているなか、特別支援教育に携わる教員においては、医療・福祉機関との連携に基づいた教育を行うのみならず、地域の小中高の学校や通常の学級との連携や地域の学校への支援を実施することが求められる。つまり、特別支援に携わる教員は障害種別による専門性の向上に加えて、各種機関や学校との連携に基づいた教育・支援の実践的スキルが必要となる。

この実践的スキルを向上させるために、障害児教育講座では「オーダーメイド型長期研修」を実施している。研修員が学ぶ主たる障害種別の研修内容や研修員のニーズに応じた研修が構成できるようにしている。

### 2：活動実績

#### （1）活動実績の概要

令和元年度では群馬県内から2名の長期研修員を受け入れた。各自の研修テーマに沿いながら、①障害児教育講座で開講している授業の聴講、②特別支援教育に関連する学会の研究大会や実践研究会への参加、③複数のフィールドにおける実践観察を行ってもらった。

#### （2）各研修員の研修テーマならびに活動実績

##### ①片山 愛（富岡市立富岡中学校）

研修のテーマ：安定して学習に取り組むことが難しい子どもが落ち着いて課題に取り組むことができる支援

発達障害の特性のために安定して学習に取り組むことが難しい児童生徒への支援について、直接的な支援者と間接的な支援者、それぞれの立場で必要と思われることを学んだ。直接的な支援者として算数科の計算学習における見直し行動について実践研究を中心に行った。具体的には児童の見直し行動の観察や児童が見直しをしたプリントの分析をもとに計算学習における効果的な見直し行動の支援のあり方について検証した。また、大学の講義や研究会への参加、巡回相談の随伴、県内外の特別支援学校や障害児者施設等の見学などを通じて、専門的な理論や支援について間接的な支援者として必要なことを学ぶことができた。学んだことを現場で活用していけるように、研修で学んだことを自分専用のマニュアルとしてまとめ、研修報告とした。

##### ②中村悦子（群馬県立聾学校）

研修テーマ：聾学校における教科としての音楽の系統的な学習について

聴覚障害のある子どもが音楽にかかわるときの拍感や拍への意識を育てるための方法、音高認識について、群馬県立聾学校での幼稚部から中学部までの実態観察、関連する文献研究を行った。拍感や拍への意識を育てることについては、他県の聾学校での指導例を参考に、群馬聾に在籍する子どもたちの実態を踏まえ、いろいろな拍の長さを取り入れる段階や言葉や動きをつけて表現しやすい方法などを考え、整理した。また、近年の重度・重複化に対応できるよう、さらなるスモールステップについての提案も行った。音高認識については、

障害の特性上難しいと思われる内容であったが、健聴の人の中にも音痴な人がいるという観点からアプローチをした。宮城教育大学の小畑千尋准教授が考案したオンチ克服指導法からヒントを得て、内的フィードバック能力を向上させ、子どもたちの可能性を広げるための手立てについて考察した。

### 3：今後に向けて

2名の研修員を中心に長期研修員の活動を展開したが、各自の研修テーマに関して深く研修を行う事ができた。このような研修員の数を限定した方法での一定の成果は認められる。大学の授業やゼミでの検討機会などの既存の資源や地域資源を活用しながら長期研修員の活動を展開することが有効であると考えられる。

# 群馬大学教育学研究科長期研修院（臨床総合センター）活動報告

## 1：長期研修院（道徳教育）の概要

新学習指導要領から道徳が教科化され、「考え議論する」道徳授業へと質的な転換が今日求められている。しかし、群馬県の各地域において道徳教育を推進するリーダー数が少なく、しかも、多忙を極める学校では十分な研修する時間の確保することも難しく授業改善をすること自体が難しい状況となっている。そこで、群馬県内の小中学校で道徳授業の質的な改善を推進できるようにするために、ニーズに応じて学校等に出向き、教材分析、実態分析、評価の仕方等を通して具体的な道徳の授業づくりの進め方について支援を行うとともに、道徳授業の進め方について毎週ブログで情報発信をしてきた。

## 2：活動実績

今年度、実施してきた道徳教育の概要は次のとおりです。

### (1) 邑楽町教育委員会にかかわる授業支援

#### ① 邑楽南中学校での授業の指導助言

- 日時 令和元年5月22日
- 参加者 9人（校長、教頭、指導主事、教員）
- 題材 3年「いじめから目を背けない」

#### ② 邑楽町立長柄小学校での授業の指導助言

- 日時 令和元年6月18日
- 参加者 9人（校長、教頭、指導主事、教員）
- 題材 1年「なんていえばいいのかな」

#### ③ 邑楽町立高島小学校での授業の指導助言

- 日時 令和元年6月25日
- 参加者 9人（校長、教頭、指導主事、教員）
- 題材 4年「つくればいいでしょ」

#### ④ 邑楽町立中野東小学校での授業の指導助言

- 日時 令和元年7月2日
- 参加者 9人（校長、教頭、指導主事、教員）
- 題材 4年「バスの中で」

#### ⑤ 邑楽町教育委員会での道徳実践のまとめへの指導助言

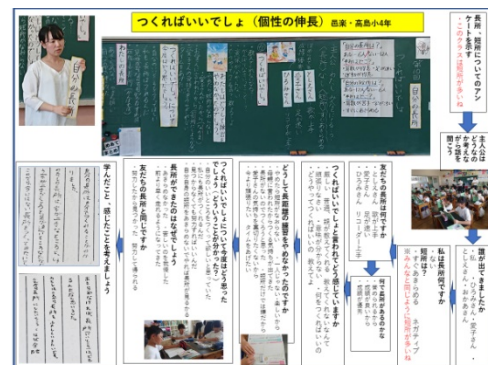
- 日時 令和元年9月20日
- 参加者 3人（指導主事、教員）
- 内容 10月の研究発表、12月の講演内容の検討

#### ⑥ 群馬県小学校道徳教育研修会での研究発表

- 日時 令和元年10月4日



実践のまとめ「なんていえばいいのかな」



実践のまとめ「つくればいいでしょ」

○参加者 群馬県内全小学校の道徳教育推進教師 312人

○内容

邑楽町立中野小学校須藤教諭、邑楽中学校和田教諭とともに「魅力ある授業づくり」について実践発表を行った。

(右写真 3人での実践発表の様子)



⑦ 邑楽町立邑楽中学校での3つの道徳授業の指導助言

○日時 令和元年11月日

○参加者 12人(校長、教頭、指導主事、研究主任)

○題材 1年「ゴミ箱をもっと増やして」

○題材 2年「支え合いの中で」

○題材 3年「缶コーヒー」

⑧ 邑楽町中央公民館で講演

○日時 令和元年12月4日

○参加者 196人(教員)

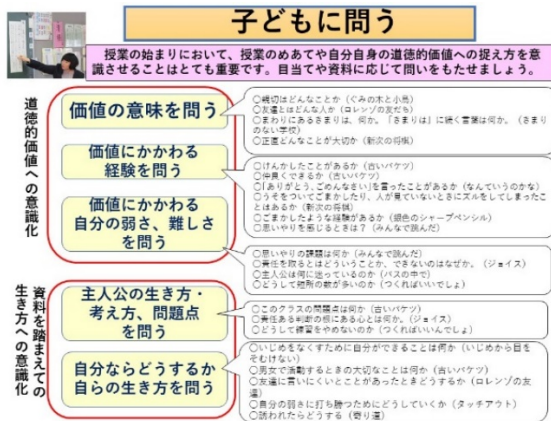
○講演「考え議論する道徳」

○内容

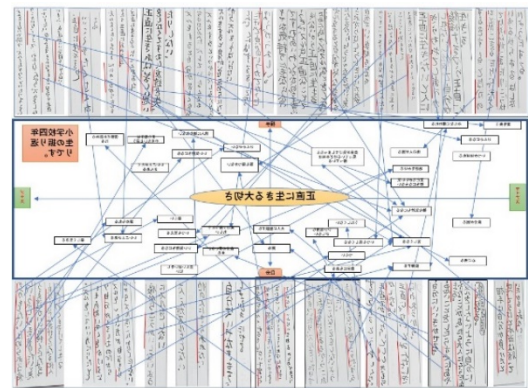
邑楽町教育委員会における3年間の文部省道徳教育総合支援地域の道徳授業の実践成果のまとめを踏まえ、講演「考え、議論する道徳授業」を行った。その際、道徳教育実践資料集をまとめ配布を行った。



作成した実践資料集



「発問のポイント」



子ども振り返りの分析

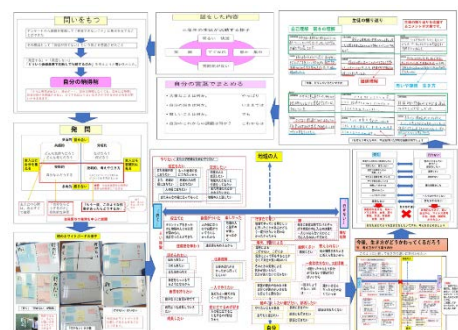
(2) 前橋市立広瀬中学校での道徳授業支援

① 道徳授業の指導助言

○日時 令和元年6月10日

○参加者 18人(校長、教頭、教員)

○題材「町内会デビュー」



授業分析資料

② 管理職による道徳授業の指導助言

- 日時 令和元年7月11日
- 参加者 18人(校長、教頭、教員)
- 題材「一冊のノート」

③ 道徳授業の指導助言

- 日時 令和元年12月13日
- 参加者 18人(校長、教頭、教員)
- 題材「ゴミ箱をどうしたらよいか」



広瀬中 円陣で解決策の検討

(3) 高崎市立入野中学校での道徳授業支援

① 道徳授業のすすめかたの講演

- 日時 令和元年8月26日
- 参加者 18人(校長、教頭、教員)

② 道徳授業の指導助言

- 日時 令和元年10月7日
- 参加者 18人(校長、教頭、教員)
- 題材「思いやり」

(4) その他に出向いた活動

① 道徳の授業づくり等の講演

- 5月13日 高崎市立中川小学校 参加者48人
- 6月8日 高崎市立八幡小学校 参加者32人
- 1月30日 前橋市教育センター 参加者38人

② 教材分析

- 8月23日 太田市立北中学校 参加者3人

(5) 道徳ブログ

10月より、附属学校教育臨床総合エンターのwebページに道徳コーナーを設置し、毎週、道徳授業づくりにかかわる情報発信を行った。



3: 今後に向けて

群馬県内の小中学校の要望に基づき、邑楽町の道徳授業の実践を中核として望ましい授業づくりについて実践資料集としてまとめることができた。また、その成果を踏まえ、群馬県内全小学校の道徳推進教師に対しても道徳の授業づくりについても講演をとおして理解を深めてきた。これからも群馬県内の道徳教育のレベルアップに貢献できるよう情報発信を行うとともに、学校の核である校長、教頭等に対してもシンポジウム等を企画して開催し、道徳教育を啓発できるよう工夫していきたい。